

令和5年度 校内研究

研究期間：令和4・5年度

昨年からの2年計画の2年次



[研究主題]

「社会の中で 自分らしく 豊かに
生きていく力を育てる 授業実践」

～指導と評価の一体化及び授業の充実を図る～

[学習指導と学習評価]

●学校の教育活動の根幹である。

●教育活動の質の向上を図る「カリキュラム・マネジメント」の中核的な役割を担う。

[学習評価]

- 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を通して、各教科等における資質・能力を確実に育成する上で重要である。

[指導と評価の一体化]

✓ 現行・学習指導要領 総則

指導と評価の一体化の必要性の明確化



学習指導要領の総則において指導と評価の一体化の必要性が明確化された。

○学校教育法施行規則(抄)

第二十四条

校長は、その学校に在学する児童等の**指導要録**(学校教育法施行令第三十一条に規定する児童等の学習及び健康の状況を記録した書類の原本をいう。以下同じ。)を作成しなければならない。

第五十七条

小学校において、各学年の課程の修了又は卒業を認めるに当たっては、児童の平素の成績を評価して、これを定めなければならない。

※中学校、高等学校、特別支援学校についても同様に規定。

指導要録の作成や
成績の評価について規定

○平成29年改訂特別支援学校小学部・中学部学習指導要領 第1章総則

第4節 教育課程の実施と学習評価

1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

(1) 第1章第2節の3の(1)から(3)までに示すこと(引用注:資質・能力の3つの柱の育成)が偏りなく実現されるよう、**単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと。**(略)

2 学習評価の充実

(1) 児童又は生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにすること。また、各教科等の目標の実現に向けた学習状況を把握する観点から、**単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすようにすること。**

指導と評価の一体化の
必要性を明確化

[昨年度の校内研究について]

日々の授業実践において「主体的・対話的で深い学び」について考え、その実現に向けた授業改善に取り組む。

【令和4年度】「国語、算数、数学、ことばかず」の授業を中心に

- ① 「何ができるようになるかー育成を目指す資質・能力ー」を明確にした上で、そのために各教科等で「何を学ぶかー具体的な教育内容の改善・充実ー」、それらを「どのように学ぶかー主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善ー」等の視点で検討
- ② 適切な評価のあり方について検討
 - ・学習指導の目標に照らして、一人一人の進歩の状況や教科等の目標の実現状況を評価する。
- ③ 授業実践
 - ・「主体的・対話的で深い学び」を目指した効果的な授業実践（ICTの活用等）
- ④ 文献研究、研修会
 - ・「学習指導要領」「主体的・対話的で深い学び」「学習評価のあり方」「目標及び内容、評価規準の設定」「ICT活用」等

- 学習指導要領や文献を基に「目標設定」「指導と評価の一体化」「学習評価」に関する基礎研究を行った。
- 基礎研究を基に国語、算数・数学、ことばかずの授業づくりと授業実践を行った。
- 『特別支援学校（知的障害）小学部・中学部ラーニング・マップ』を使い、客観的に国語、算数・数学の実態把握を行った。
- 『特別支援学校学習指導要領 目標 - 指導 - 評価を一体化する「国語」「算数・数学」の学習評価』を基に「授業実践シート」を作成し、一人一授業実践を行った。

[今年度の校内研究について]

日々の授業実践において「主体的・対話的で深い学び」について考え、その実現に向けた授業改善に取り組む。

【令和5年度】「各教科等」の授業を中心に

- 1年目の研究の成果や課題を踏まえ PDCA サイクルに基き実施し、さらに実践を深める。

- 各教科の年間授業計画、個別の指導計画について、**評価規準**を記載する新様式（全学部統一）での試行が次年度よりスタートすることとなった。

目標（評価規準）、評価基準（◎○△）と修正する方向

*授業計画と個別の指導計画の運用上の課題点（困り感）を解決するため。

○年間授業計画、個別の指導計画の新様式の試行に際して

- ・ **目標の設定方法**、各教科の「単元づくり」のプロセスについて、全体で共通理解を図る必要がある。

↓
集団（学習グループ）の実態によって、2段階の目標設定が必要

- 学習指導要領の目標に準拠した評価の基本的な考え方については周知した。しかし、学習指導要領に示される各教科の目標に準拠した評価については、特別支援学校では難しい場合もあるのではないかと、教員の困り感がある。
- より具体的な記述評価をした方が児童生徒の実態を捉えやすい、学びの連続性を実現するためには記述評価が必要、という意見もある。

目標（評価規準）、評価基準（◎○△）と修正する方向

*授業計画と個別の指導計画の運用上の課題点（困り感）を解決するため。

●小学部は音楽及び自立活動、中学部は作業学習及び自立活動、高等部は総合的な探究の時間及び自立活動を対象授業とする。

●年間授業計画と個別の指導計画のつながりを意識し、単元設定と授業構成の工夫を図りながら、児童生徒の学びの充実を目指す。

●知的障害及び知的障害を合わせ有する肢体不自由の児童生徒の教科指導の在り方について、教科等に関連する基礎的な研究及び授業実践研究を通して考察する。

※インクルージョンの視点

R4 「授業実践シート」の作成

R5 「ふじざくらの実践」

R4 小学部・中学部Ⅱコース研究「一人一実践」シート

教科等	数学	単元名	色々な方向のリング抜き		
学 年	□年	生徒名	□□□	指導者	□□□
目 標	知・技	長短のある筒や方向の変化がある筒からリングを抜き取ることができる。			
	思・判・表	リングを箱に置いた時に終点を意識し、終わりの合図を教師に示すことができる。			
	学	1方向や2方向のリング抜きに意欲的に取り組もうとしている。			
評 価 規 準 手 だ て な し	知・技	リングを筒の長短や方向の変化に合わせて終点の方向に一人でスムーズに抜くことができたか。	◎		
		リングを筒の長短や方向の変化に合わせて動かし、少ない支援で抜くことができたか。	○		
		リングを動かすことができたか。	△		
	思・判・表	リングが抜き終わったことを自分で判断し、合図を示すことができたか。	◎		
		リングを抜き終わった時に、教師の促しで終わりが分かり、合図を示すことができたか。	○		
		リングが抜き終わったことを教師と一緒に確認することができたか。	△		
	態	自らリング抜きに集中して取り組もうとしている。	◎		
		教師の言葉掛けでリング抜きに集中して取り組もうとしている。	○		
		リング抜きに取り組もうとしている。	△		

①どんな授業にしていける？（どんな力をつけるために、どのような授業づくりをするか）

- 学習内容（課題）に見通しをもち、やるべきことを理解できる力。
- 方向（上下左右）を意識して、身体を動かすことができる力。
- ・本児が、課題の意味を理解したり、課題の始まりや終わりを意識したりできるように教師が師範を示したり、教師が手を介助したりする。
- ・生徒の実態（手指の動き）に合わせた教材を活用した授業を実践する。

②指導と評価の実践① 日付：R4年9月21日

◎ 評 価 基 準	知・技	教師と一緒に手指を動かすことで、リングを左右に動かし抜くことができる。	○
	思・判・表	目の前に箱を提示し、意識させることで、抜いたリングを投げずに箱に入れることができる。	◎
	態	教師が言葉掛けをすることで、リング抜きに集中して取り組もうとしている。	○

<生徒の様子>
 ・主として左手を使ってリング抜きの課題に取り組む様子がある。また、リングを左右に動かすこともあるが、きこちなさがある。リングを手前に引きながら抜こうとする動きもある。終点を本児から見て右側に設定すると、終点を左側に設定したときよりもスムーズにリングを抜くことができた。両手を使うことは難しい様子が見られた。
 ・リングが抜けたことが終わりであることを自分で判断しているかどうかはわからないが、リングを箱に入れたあと、箱を見せると終わりを意識したのか、手を叩くことはできた。

●ふじざくらの実践サイクル

- 年間授業計画
- 個別の指導計画
- 通信表
- 指導要録

[校内研究の3つの軸]

1

教科等に関する
基礎研究

2

授業づくり研究

3

授業実践研究

1 学期

2・3 学期

個 別 最 適 な 学 び

協 働 的 な 学 び

教科横断的な視点に立った
授業計画・指導計画

主体的・対話的で深い学び
を目指した授業実践

授業改善

観点別学習状況の評価

客観的な授業評価

評 価 規 準

[研究計画について]

実施日	内容
5月 9日 (火)	研修会①肢体不自由基礎研修会*地域支援部と連携：OJT
5月 16日 (火)	全体研究会① (R5研究について)
5月 23日 (火)	学部研究会① ・各学部の研究計画、研究方法等の確認、教科等に関する研究 ※授業計画 (実態把握、指導内容と目標の確認、評価規準の設定)
6月 21日 (火)	学部研究会② ・実態把握 (共通指標)、教科等に関する研究、授業研究等
7月 4日 (火)	学部研究会③ ・学習評価、授業改善等 (第2回全体研究会・R5中間報告に向けて)
7月 25日 (火)	研修会②情報研修会*情報図書部と連携：OJT
夏季休業中	教材・教具展示会、(校外)日本肢体不自由教育研究協議会等
7月 31日 (火)	関東甲越地区肢体不自由研究協議会 山梨大会 (Web開催)
8月 11日 (金)	
8月 21日 (月)	全体研究会② (中間報告)*講師として、特総研・横尾俊先生を招聘予定
8月 23日 (水)	研修会③心理研修会*地域支援部と連携：OJT
9月 12日 (火)	学部研究会④ ・教科等に関する研究、授業研究等 ※授業計画 (実態把握、指導内容と目標の確認、評価規準の設定)
10月 17日 (火)	学部研究会⑤ ・教科等に関する研究、授業研究等
11月 28日 (火)	学部研究会⑥ ・学習評価、授業改善等 ※成果と課題
12月 19日 (火)	学部研究会⑦ ・学習評価、授業改善等 ※成果と課題
1月 16日 (火)	学部研究会⑧ ・学部研究のまとめ
1月 23日 (火)	学部研究会⑨ ・学部研究のまとめ、来年度の方向性
2月上旬	※年間授業計画、個別の指導計画等、各種様式の全学部共通化
2月 日 ()	全体研究会③ (成果と課題)*指導主事招聘

*講師招聘、指導主事招聘については、日時未定。派遣要請の申請後に確定する。

●全体研究会【全3回】

●学部研究会【全9回】

*グループ研究は、必要に応じて増える場合もある。

*個人ワークのみの研究日は原則設定しない。

●学部研究会の計画は、次週の学部研究①で説明する。

※本計画には、研修計画も含む。

[全体研究会について]

第1回

本日

第2回

8月21日（月）14：00～16：00

- ①講演（講師：特総研・横尾 俊総括研究員）
- ②中学部事例発表及び指導助言

第3回

2月20日（火）15：50～17：00

- ①小学部・高等部事例発表
- ②研究のまとめ
- ③指導助言（菊池 恵指導主事）

[研究方法について]

実施日	内容
5月 9日 (火)	研修会①肢体不自由基礎研修会*地域支援部と連携：OJT
5月 16日 (火)	全体研究会① (R5研究について)
5月 23日 (火)	学部研究会① ・各学部の研究計画、研究方法等の確認、教科等に関する研究 ※授業計画 (実態把握、指導内容と目標の確認、評価規準の設定)
6月 21日 (火)	学部研究会② ・実態把握 (共通指標)、教科等に関する研究、授業研究等
7月 4日 (火)	学部研究会③ ・学習評価、授業改善等 (第2回全体研究会・R5中間報告に向けて)
7月 25日 (火)	研修会②情報研修会*情報図書部と連携：OJT
夏季休業中	教材・教具展示会、(校外)日本肢体不自由教育研究協議会等
7月 31日 (火)	関東甲越地区肢体不自由研究協議会 山梨大会 (Web開催)
8月 11日 (金)	
8月 21日 (月)	全体研究会② (中間報告)*講師として、特総研・横尾俊先生を招聘予定
8月 23日 (水)	研修会③心理研修会*地域支援部と連携：OJT
9月 12日 (火)	学部研究会④ ・教科等に関する研究、授業研究等 ※授業計画 (実態把握、指導内容と目標の確認、評価規準の設定)
10月 17日 (火)	学部研究会⑤ ・教科等に関する研究、授業研究等
11月 28日 (火)	学部研究会⑥ ・学習評価、授業改善等 ※成果と課題
12月 19日 (火)	学部研究会⑦ ・学習評価、授業改善等 ※成果と課題
1月 16日 (火)	学部研究会⑧ ・学部研究のまとめ
1月 23日 (火)	学部研究会⑨ ・学部研究のまとめ、来年度の方向性
2月上旬	※年間授業計画、個別の指導計画等、各種様式の全学部共通化
2月 日 ()	全体研究会③ (成果と課題)*指導主事招聘

*講師招聘、指導主事招聘については、日時未定。派遣要請の申請後に確定する。

●教科等に関する文献研究

●授業づくり研究

●授業実践研究

●6月、1月に共通指標での客観的な実態把握を行う。

[共通指標]

●全学部共通『ラーニング・マップ』を使用する。

※高等部Iコース：高等部1、2段階の場合、『学習指導要領』の目標一覧を活用する。

※重度重複障害の場合：『学習到達度チェックシート』の活用も検討する。

[ラーニング・マップの活用]

1

- 実態把握
- 目標設定

2

- 教科の系統性の確認と理解
- 目標設定の妥当性
- 学習評価の妥当性

3

- 個別の指導計画への活用

6月

1月



[研究組織]

全体研究

低学年+Aグループ

中学年グループ

高学年グループ

音楽

農園班グループ

手工芸班グループ

リサイクル班グループ

作業

1年+Aグループ

2年グループ

3年グループ

探究